



代表理事 高井啓大郎さん

自身も5歳からキャンプに参加し、野外活動センターでの勤務などを経て「ほんまもんの自然体験」を子どもたちに感じてほしいとのあっく自然学校を設立。現在は会員数2300人を超え、新たに名古屋校も開設した。

主役は、すべて子どもたち!
「ほんまもんの自然体験」を提唱

1992年に誕生した「のあっく自然学校」は、大阪・兵庫・岡山・名古屋を拠点に活動する自然学校。0歳からの野外教育を推進し、一過性のものではなく生涯学習としての教育的キャンプを開催しています。

しっかりとリスクマネジメントのもと、しっかりしたリスキマネジメントのもと、「自然の中では雨風にさらされることもある」とあります。子どもたちには人工的な体験ではない『ほんまもん体験』を実施しています」と、プロ

「森のようちえん」や「お魚俱楽部」などの年間プログラムのほか、長期休みキャンプなどプログラムも多彩です。

津山市にある築130年の古民家で過ごす1泊2日の田舎体験です。田んぼで泥まみれになつて遊んだり、ロープクライミングで動き回ったり。そんなプログラム内容を考えるのも、畑を耕して野菜を育てるのも、ダッヂオーブンやピザ窯で料理をするのも、すべて子どもたち。年8回実施しています。

また、海外プログラムとして、本場カナダで行うスキースクールも開催しています。一度行つたらきっと忘れられない思い出になります。詳細は問い合わせを。

体験プログラムが
いっぱい!

自然学校 通信



大阪府

のあっく自然学校

一般社団法人 のあっく自然学校
大阪府枚方市村野西町5-1-306
TEL: 072-805-3230
<http://www.noac.jp/>

折れた木の第2の人生

白川郷といえば、冬に平均3mの雪が積もる日本有数の豪雪地帯。雪がたくさん積もりすぎると、森の中である異変が起きます。雪の重さに耐えきれず、木がバキバキッと折れてしまうのです。降ったばかりはふわふわな雪が、だんだんと時間がたつと締まって重くなつていき、最後はまるで氷のようになってしまいます。

しまうのです。

折れた木と聞くと、道を塞いでしまったり、動かすのが大変だったりと、良いイメージがあまりないと思います。

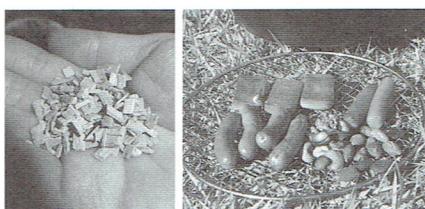
しかし、この折れた木が、薫製のチップとして生まれ変わることができるのです。一般的に薫製に適していると言われチップとし

て市販されている木の仲間が、ここ白川郷の森にもたくさんあります。ナラやクルミやブナといった木の実をつける木や、見て楽しめるサクラやカエデなど、わかりやすいでしょうか。

それらの木々で薫製のチップを作るには、折れた木を森で見つけるのがいちばん難しいかもしれません。運良く折れた木を拾つたら、

あとはその木をナイフでちよつと厚めのかつお節を作るイメージで削っていきます。お鍋やダッヂオーブンでチーズやソーセージを薫製するだけなら、ひとつかみも削れば十分です。

折れた木や落ちている枝も見方を変えればこんな楽しみ方もできます。みなさんもぜひ、森に行ったときに折れた木を拾つて、薫製を楽しんでみてはいかがでしょうか。



燻製に使うチップ

森の香りを楽しむ



ダッヂオーブンで作ったチーズの燻製「いただきまーす!」

トヨタ
TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
白川郷自然学校

白川郷 フィールドノート

インターブリター
佐藤翔太郎

協力／トヨタ白川郷自然学校
岐阜県大野郡白川村馬狩223
TEL: 05769-6-1187
<http://www.toyota.eco-inst.jp>